

2004(平成16)年度極楽寺門徒会収支決算書

2004(平成16)年4月1日~2005(平成17)年3月31日

	費目	金額(円)	摘要	
収入	門徒会会費	765,000	延255戸×3,000円	
	本山教化助成金	11,800	門徒講金・永代経志進納によるもの	
	貯金利息	5		
	前年度繰越金	326,625		
	合計	1,103,430		
支出	負担金	471,970	本山賦課金	143,930
			本山門徒講金	152,000
			山口教区費	144,440
			大津東組 組費	31,600
	研修会費	1,000	大津東組総代会	1,000
	火災保険料	147,450	本堂 6,500万円	掛金 111,250
			庫裏 3,800万円	掛金 36,200
	会議費	60,000	6/28 総代・世話人会議	
	雑費	10,000	前世話人逝去香儀	
	合計	690,420		
差引残金		413,010	漁協普通貯金(次年度繰越金)	

修復基金特別会計収支決算書(初年度)

	費目	金額(円)	摘要
収入	通常会計からの繰入金	3,807,912	特別会計設立
	貯金利息	489	普通貯金7円 定期貯金482円
支出		0	
差引次年度繰越金		3,808,401	

ているような発言ですが、今では誰も取り上げません。これも時代の流れ。仕方がないことなのでしょう。

日本で戦争が終わり、60年がたちました。世の中も大きく変わったのでしよう。便利さ、快適さをはじめ様々なものを手に入れ、同時に大切な何かを失いもしたといわれます。その大切な何かを取り戻すためという事で、今いろんなことが叫ばれています。それがこんな「勇ましさ」なのでしょう。浄土真宗の先輩方は、阿弥陀様を「親さま」と呼んできました。すべてのいのちを一人子のように慈しむ仏さまだからです。その心をいただく中で、人を、自然を慈しみ、その恵みに「有り難い」と頭を下げていかれた。私たちが取り戻すべきは、実は「勇ましさ」などではなく、「慈しみの心」ではないのでしょうか。

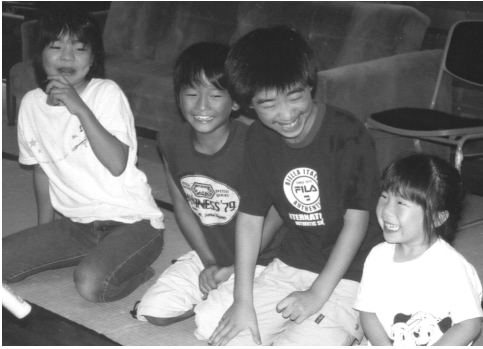
日本で戦争が終わり、60年がたちました。そして今、「勇ましさ」を、「誇り」を取り戻そうという動きが出ています。でも考えたら、時には生活のためにつらい思いをしながらも、みんな懸命に働いている。そんな庶民の感覚とはかけ離れたところにある、誰かの誇りやメンツのために、子どもたちが戦争に行かねばならぬのならば・・・こんな馬鹿げた話はありません。でも、それをいう人たちって、私たちが選挙で選んだ人たちなのですか。

合掌



7月3日(日)、お寺の子ども会が、再開しました。第一回目は、おつとめ・おはなし・ゲームの後、お楽しみ企画として、たこ焼きを焼いて食べました。野波瀬だけでなく、土手からの参加もありましたよ。

お寺も子どもたちも、いろいろな行事があるので、不定期にしかできませんが、これからも、ゆつくり、のんびりやっていきたいと思えます。子どもたちだけではなく、大人のみなさん、あそびにきて下さい。



お寺の子ども会

今後の予定。まっています！

8月22日(月) 8時45分から

今月は、月曜日です。

9月11日(日) 8時45分から

10月16日(日) 8時45分から

ぶっせい

仏青の全国大会が開催されました

前号で紹介しましたとおり、7月30・31日の二日間、長門市を舞台に、《全国真宗青年の集いやまぐち大会》が開催されました。全国だけではなく、アメリカ・カナダ・ブラジルからも、総勢四百人を超える仏教青年会(仏青)の若者が参加しました。

初日はホテル西京で、講演やディナーパーティー。特にディナーパーティーのアフリカ太鼓ジェンベのコンサートでは、大いに盛り上がり、なんとホテルが揺れました。(いや、これホントの話です。)ホテルの方は、真っ青になっておられました。二日目は、みずぐ通りを舞台に、ウォークラリーです。途中、地元仏青によるカキ氷や飲み物の無料休憩所も用意。参加者は二日間を満喫して帰路にいたしました。

私も全国大会は何度も参加しましたが、冷静に見ても、今回の大会は本当に良い大会でした。これも、陰で支えてくださった皆さんのおかげです。特に我が極楽寺の仏青をはじめとする、長門・三隅地区の仏青の皆さんのご協力には、本当に感謝しております。参加者の感想を見ても、「たくさんのおもてなしがうれしかった」という言葉が目につきました。

これを機会に、また仏教青年会がもっと盛り上げられたいですね。中村の報恩寺さんも、新たに始められましたよ。お邪魔しましたが、たくさんの参加者がありました。極楽寺仏青も頑張っています。あなたも、仏青に参加しませんか。

(若院)

